



////////////////////////////////////

日本植物分類学会 ニュースレター

////////////////////////////////////

No. 61

May 2016

今号のトピックス

東アジア国際植物分類学シンポジウム（8/23-25 東京大学）の
詳細案内および申込方法を掲載しています。

目 次

会長および評議員選挙公示	2
評議員会からの会長候補者の推薦	3
諸報告	
日本植物分類学会第 15 回大会報告	3
大会オプション企画の報告	5
2016 年度大会発表賞の報告	6
2016 年度大会発表賞受賞者喜びの声	6
庶務報告(2016 年 2 月～ 5 月)	8
2016 年度第 1 回評議員会議事抄録	8
2016 年度総会議事抄録	10
2016 年度事業計画および予算	12
日本植物分類学会の財政基盤の健全化にむけて(1)	14
お知らせ	
東アジア国際植物分類学シンポジウム 2016 のご案内	15
日本植物分類学会第 16 回大会(京都)のお知らせ	17
植物研究会・同好会紹介	
しだとこけ談話会	17
北方山草会	19
2017-2018 年度 日本植物分類学会役員選挙被選挙人名簿	21
会員消息	24

会長および評議員選挙公示

選挙管理委員長 牧 雅之

2016年12月末をもって、2015–2016年度の役員が任期満了となります。これにともない、次期会長および評議員の選挙を、学会会則第12条および役員等の選出についての細則に従い、下記の通り行います。今回、会長はじめ役員会の意向により、これまでよりも少し早めに選挙を行うことになりました。これに伴い、公示から投票までがやや短い期間となります点をご確認ください。

この選挙で選出される会長および評議員には、学会運営や活動の舵取りをしていただくこととなります。大切な選挙ですので、学会員の権利である一票をぜひ投じて頂きますよう、会員のみなさまにお願いいたします。投票の締め切りは2016年7月20日（水）です。

なお、会則第13条3で定められているように、役員には在任期間に関する制限があります。今回の選挙では、以下の方に各役員の被選挙権がありません。投票用紙に記名されても無効になりますのでご注意ください。

会長の被選挙権なし：角野 康郎

評議員の被選挙権なし（五十音順）：池田 博，梶田 忠，田村 実，永益 英敏，西田 治文

また、今回役員等の選出についての細則の第2条にもとづき、評議員会から会長候補者として以下の3名の方が推薦されています。なお、評議員会推薦の会長候補者以外の被選挙権をもつ会員に投票されてもかまいません。

評議員会推薦の会長候補者（五十音順）：伊藤 元己，高宮 正之，村上 哲明

選挙実施細目

1. 投票締切：2016年7月20日（水）（当日消印のものまで有効）
2. 投票用紙：投票には、ニュースレター本号に同封されている会長選挙投票用紙（白色）と評議員選挙投票用紙（ピンク色）を使用してください。それ以外の用紙を用いた場合、無効となります。
3. 記入方法：ニュースレター本号の被選挙人名簿（21–23ページ参照）をご覧になり、会長選挙投票用紙（白色）に会長候補者1名を、評議員選挙投票用紙（ピンク色）に評議員候補者8名以内をそれぞれ記入してください。同姓あるいはよく似た名前の会員がおられます。投票に当たっては選挙人名簿を参照の上、氏名を略さずに記入してください。規定数を超過して候補者名を書かれた場合は、その票自体が無効となります。また、会員以外の候補者名を書かれた場合は、会員以外の部分のみが無効となります。
4. 投票用紙の郵送：記入後、投票用紙を二つに折り、同封の返送用封筒に入れて郵送してください。封筒には、ご自分の住所と氏名を必ず記入してください。封筒が同封されていないか、あるいは紛失した場合には、「会長・評議員選挙投票用紙在中」と朱書きした任意の封筒で、下記の投票用紙送付先まで郵送してください。その場合、切手代はご負担ください。なお、投票用紙の再発行はいたしません。
5. 開票：2016年7月29日（金）に開票します。開票場所は東北大学を予定しています。会員2名以上の立ち会いのもとに開票します。会員は開票に立ち会うことができます。立ち会いを希望される場合は、開票日時・場所の詳細を追って連絡いたしますので、選挙管理委員長までご連絡ください。
6. その他、不明な点などございましたら下記宛ご連絡ください。

投票用紙送付先および連絡先

〒980-0862

宮城県仙台市青葉区川内12-2 東北大学学術資源研究公開センター 東北大学植物園

日本植物分類学会選挙管理委員長 牧 雅之

Tel & Fax: 022-795-6788 e-mail: maki@m.tohoku.ac.jp

評議員会からの会長候補者の推薦

評議員 池田 博

本学会では、役員等の選出についての細則第2条に「評議員会は若干名の会長候補を推薦することができる」と定めてあります。そこで、評議員会より下記の通り会長候補者を3名推薦します。なお、評議員会からの推薦は、学会員皆さんの推薦候補者以外への投票を妨げるものではありません。どうぞ熟考の上、評議員会からの推薦候補である・ないにかかわらず、最も適任と思われる方に大切な一票を投じてくださるようお願いいたします。

推薦する会長候補者（五十音順・敬称略）：伊藤 元己，高宮 正之，村上 哲明

諸報告

日本植物分類学会第15回大会報告

第15回大会会長 中田 政司

概要

日本植物分類学会第15回大会が2016年3月5日（土）から8日（火）に富山市の富山大学で開催されました。参加者総数は229人で、内訳は一般161人（うち当日31人）、学生68人（うち当日8人）でした。口頭発表48題（うち大会発表賞エントリー24題）、ポスター発表72題（うち大会発表賞エントリー28題）、受賞記念講演4題、合計124題の研究発表が行われました。3月7日の夜に開かれた懇親会の参加者は173人（一般127人、学生46人）でした。また、公開シンポジウムを日曜日の3月6日に開催し、「富山県の植物自然史研究—どんな植物が発見され、何がわかってきたか—」というタイトルで4人の研究者による講演が行われました。オプションとして企画された3月5日（土）の富山県中央植物園見学会には30人の参加があり、職員による栽培温室と圃場のガイドツアー後、開催中のラン展「蘭まつり大会」を自由見学していただきました。大会終了後のオプションとして企画された富山市科学博物館植物標本庫（TOYA）閲覧には事前に23人の申し込みがあり、当日参加も加わって標本庫は大変な賑わいとなりました。その概要は、お世話いただいた太田道人氏のレポートをごらん下さい。

収支

第15回大会の収支決算報告の概要を以下に示します。前回の福島大会では、大きな外部資金が得られ、会場費が無償ということで参加費が引き下げられました。今回は富山市からのコンベンション開催

第15回大会収支決算報告概要

収入		支出	
参加費(過払い含む)	803,000	会場費・設営費	323,876
懇親会費	886,000	要旨集・チラシ印刷費	111,688
弁当代	71,367	文具費・送料	76,172
富山市コンベンション助成	350,000	懇親会費	1,192,000
大会補助金	100,000	会議費・弁当代	136,397
雑収入	1,917	お茶・茶菓子	46,311
		受賞者旅費・宿泊費	33,430
		アルバイト代・謝金	209,500
		返金	5,800
繰越金	120,619	繰越金	197,729
計	2,332,903	計	2,332,903

事業補助金 25 万円を見込むことができたものの、無償で使用できる会場がなく、前回並みの人数で懇親会を開催する費用を考慮すると、参加費・懇親会費を例年並みの額に引き上げざるを得ませんでした。結果的に参加者が 200 人を超え、富山市からの補助金が増額されたことは嬉しい誤算で、収支をうまく収めることができました。皆様には参加申込時に補助金申請のための聞き取りにご協力いただき、ありがとうございました。

組織と会場

今大会は、富山県中央植物園職員と富山大学の岩坪美兼教授、富山市科学博物館の太田道人学芸課長で準備委員会を組織し、分類学会会員の数が多い植物園スタッフが事務局として準備を担当し、岩坪教授と研究室の学生さんに会場での運営を、太田課長にはオプションの標本室閲覧を担当していただきました。当初、会場として市内の施設なども検討しましたが、結局交通の便が良く設備の整っている富山大学の黒田講堂を使用することになりました。シアター型ホールの他に下の会議室を休憩室・クロークとして使用できること、広いロビーをポスター展示に利用できること、1 棟で開催できるため人員配置が少なく済むことなど多くのメリットがありましたが、ホールの収容人員が 500 人と大きかったため会場が閑散とした印象になり、椅子席のためパソコンやノートの使用にご不便をおかけしました。

研究発表と公開シンポジウム

プログラム編成では、一般の方が聴講しやすいよう公開シンポジウムを日曜日である発表初日の午後に設定すること、大会発表賞選考委員会が開催される 7 日昼までにエントリー者の口頭発表（写真 1）とポスターセッションのコアタイムを終えることに苦心しました。事前配布プログラムでは口頭発表の時間を 1 人 15 分とご案内しましたが、登壇やパソコン接続のロスタイムを 1 分と見込んで、講演、質疑応答を 14 分に変更させていただきました。全体ではタイトなプログラムになり、時間調整のための休憩時間が取れませんでした。ポスター展示は、発表賞エントリー数とロビーに設置できるパネル数が偶然一致したため、ロビーをエントリー者用（写真 2）、隣棟の災害対策プラザの 2 階を一般用の会場にしましたが、ツムラ・植研編集委員会様からの「植物研究雑誌の 100 年」のポスター発表については、準備委員会から依頼して、雑誌の実物展示を含めて黒田講堂 1 階のエントランスに展示していただきました。一般用が窮屈だったとの声を多く耳にし、申し訳なく思っています。ポスター発表数は前回の福島大会より増えており、この傾向は続くと思われるので、今後の大会準備では広いポスター発表会場の確保が重要であると思われる。公開シンポジウムは、一般の方にも地元富山の植物に関心を持っていただこうと企画したもので、富山県における植物研究史、地域の特徴、最近の話題から将来の計画まで、多様な視点で講演をいただきました（写真 3）。富山県中央植物園友の会植物誌部会や富山県生物学会会員の方など、一般から約 40 名の参加がありました。



写真 1 口頭発表の様子
(撮影：兼本正，以下同様)

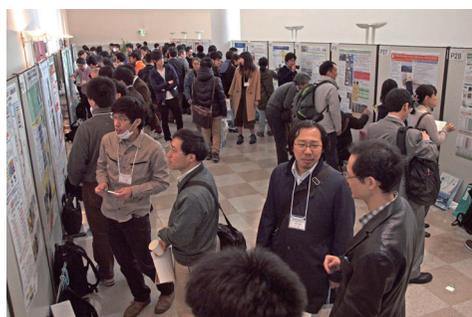


写真 2 ポスター発表の様子
(大会発表賞エントリーの部)



写真 3 公開シンポジウムの様子

休憩室・懇親会

黒田講堂 1 階エントランスに関連学会の印刷物や書籍の販売ブースを設け、会議室を 2 分してクロークと休憩室・昼食場所に使用しました（写真 4）。当初、会議室の半分はポスター会場の予定でしたが、大学側の手違いで別棟でのポスター展示が可能になったものです。これがなければ、スペース的には破綻していました。なお、事務局のミスで 6 日の昼食弁当代を振込まれていた方のお名前に漏れがあり、ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。懇親会はこれまで何度か学会の懇親会をお願いしたホテルグランテラス富山で行いました。富山の名産・郷土料理に名前をつけて提供していただいたのが好評でした。また、富山県酒造組合、ます寿し共同組合のご協力で、地酒 17 銘柄、ます寿し 13 銘柄を用意し、富山人でもなかなか機会のない利き酒と味比べを楽しんでいただきました。席上、大会発表賞の発表があり、学会賞受賞者の記念撮影が行われました（写真 5）。

大会運営の多くは準備委員会に任せられており、講演要旨集の販売や書籍販売出店料などは大会毎に対応が異なるようですが、統一が望ましいと感じました。また、大会受付に学会費についての問い合わせが多いことから、時間を決めて学会費の納付窓口を設ければ良いと思いました。おわりになりましたが、大会に参加いただいた皆様、運営にご協力いただいたアルバイト学生の皆様、コンベンション開催事業補助金についてお世話になった富山市商工労働部観光振興課ほか、ご協力いただいた皆様にお礼を申し上げます。



写真 4 休憩室の様子



写真 5 学会賞受賞者の記念撮影

大会オプション企画 富山市科学博物館植物標本庫（TOYA）閲覧の報告

富山市科学博物館 太田 道人・坂井 奈緒子

富山市科学博物館植物標本庫（TOYA）は、北陸地方の維管束植物を主な収蔵品とする、収蔵点数わずか 11 万点の小さな標本庫である。スタッフの能力及び人手不足から、同定精度を高めることは後回しとし、まずは人に見てもらえるよう配架だけは進めておくという姿勢で標本整理が行われてきた未熟な標本庫である。ここに、平成 28 年 3 月 9 日、日本植物分類学会富山大会を期に 20 数名もの日本の植物分類のブレインが集結することとなった。管理人としては、まさにこの日がくるのを待っていたという心境であった。

開場と同時に、スゲ属、ササ属、ママコナ属、イチヤクソウ属、セリ科、ラン科など、各人ご専門の分類群の標本を取り出し確認作業を進められた。もとより標本点数が限られているので、ほとんどの方は所期の目的を短時間で達せられ、あとは、ありがたいことに標本庫へのコントリビュートに時間を当ててくださった。猛烈なスピードで正しく同定された標本が積み上がっていき、コメントが付された標本数は 197 点にのぼった。中には、北陸新産となるものもあった。これらは現在改訂作業を進めている富山県植物誌や郷土の植物の同定の基準として活用していきたい。

後日、複数の方からは、使いやすい収蔵庫でしたとの嬉しいお言葉をいただいた。庫内の通路幅が広めで人のすれ違いが容易だったことで、今回の 20 名を超える人たちの同時利用に対応できた面もある。また、スピーシーズカバーの上下寸法を長めにするると標本が傷みにくくなるなどのアドバイスもいただき、

今後の励みになった。地方の博物館として、今回閲覧に来ていただいた研究者の皆様にご寄与できたことはほんのわずかであったが、皆様のご厚意で、郷土の植物研究・教育の基礎資料の価値を高めていただいたことをたいへん嬉しく思う。今後とも、信頼される標本庫となるよう微力を尽くしていきたい。今回の標本庫閲覧を企画いただいた日本植物分類学会大会実行委員会及び来館くださった皆様に、心からお礼申し上げる。



収蔵庫内での標本閲覧



標本作製室での標本閲覧

2016 年度大会発表賞の報告

大会発表賞選考委員長 池田 博

日本植物分類学会第 15 回大会において、優れた研究発表をおこなった若手研究者に授与する大会発表賞は、以下の 4 人に決まりました（五十音順）。

口頭発表部門

江口 悟史（京都大・院・理・植物）

「RADseq データと分岐年代推定が解き明かすチゴユリ属（イヌサフラン科）の進化史」

高橋 大樹（京都大・総合人間）「萼裂片長の著しい勾配を示すカンアオイ属サカワサイシン節の進化史」

ポスター発表部門

山本 崇（千葉大・院・理）「汎熱帯海流散布植物ハマアズキを用いた太平洋内の「見えない障壁」の探索」

山本 将也（京都大・院・人環）「サクラソウ属コイワザクラ節 (*Sect. Reini*) の系統と生物地理」

今大会では、口頭発表部門に 24 題、ポスター発表部門に 28 題のエントリーがありました。いずれも若手研究者の力のこもった発表で、甲乙つけがたいものでした。学会会長、評議員 11 名、そして昨年度の大会発表賞受賞者からなる選考委員による採点の後、合議により厳正に審査した結果、上記 4 名の方に発表賞を授与することになりました。

一般的に発表内容については、近年の分類学会の隆興を表すように、対象とする分類群に関する系統・分類といったオーソドックスな解析に加え、繁殖特性や保全といった生態学的解析、あるいは最新の手法を用いた将来的に有望な解析など多岐にわたり、今後の研究の拡がりを予感させるものでした。

受賞された方、おめでとうございます。受賞されなかった方も、現在進めている研究を自信を持って続けていかれることを希望します。選考には委員の方をはじめ、大会準備委員会に大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

2016 年度大会発表賞受賞者喜びの声

ニュースレター幹事 堤 千絵

発表賞受賞者の皆様の喜びの声をお伝えいたします。

江口 悟史さん

口頭発表賞を受賞しました京都大学大学院理学研究科の江口悟史と申します。この度は榮譽ある賞をいただき大変光栄に思います。私は、植物が今日までにどのような進化の過程を辿ってきたのかを明らかにすることで、いま生きている植物をより深く理解したいと考えて研究を進めています。

今回の発表では、チゴユリ属（イヌサフラン科）を対象に、特にホウチャクソウを中心とするグループに注目し、RAD-seqで得た大規模な塩基配列データを解析することで、ホウチャクソウが3つのグループに分けられることを明らかにしました。さらに分岐年代推定を組み合わせることで、それら3つのグループの形成に至る進化史をトカラ海峡の地史と重ねて論じました。

ゲノムワイドなデータを用いた系統解析の試みは近年盛んに行われていますが、まだまだ方法論が確立していない発展途上の領域です。それゆえに非常に面白いのですが、一方で一筋縄ではないことも多々あります。今回の発表までも多くの問題に直面し、常に勉強や試行錯誤が必要でした。ご指導いただいた皆さま、議論等に付き合ってくださいました方々には、心より感謝しております。おかげさまで成果を出すことができ、さらには今回こういう形で評価をいただけたことを非常に嬉しく思います。これを励みにこれからも精進して参りますので、今度ともご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い致します。



高橋 大樹さん

口頭発表賞をいただいた京都大学の高橋大樹です。このような名誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。私は植物の多様性と進化に興味を持ち、カンアオイ属植物を用いて研究しています。今回、萼裂片長が種間で勾配的に伸長する特徴をもつサカワサイシン節各種の、進化史とその地理的勾配形成への考察を発表させていただきました。この研究を行う上で多くの方々にご協力、助言をいただきました。心より感謝いたします。今回の結果によりカンアオイが多様性をもつ理由の一端が明らかになりましたが、カンアオイにはまだまだ面白い現象が多く存在しています。これからも多くの人に興味を抱いていただけるような研究を続けられるように精進していきたいと思っております。



山本 崇さん

ポスター賞をいただきました山本崇です。先日の学会の際は千葉大学の所属でしたが、現在は沖縄県西表島にある琉球大学熱帯生物圏研究センターに移り研究を行っています。今回の受賞は予想外のことで、大変嬉しく思っています。

私は広大な分布域を持つ海流散布植物の分布変遷史や、地域ごとの分化・適応に興味を持って研究をしています。今回の発表では、自由に海を渡っていると思われていた海流散布植物ハマアズキが、実は海域内に明瞭な遺伝構造を持ち、それが最終氷期に由来する可能性があることをご報告させていただきました。長時間のフライトを経た海外の調査地でハマアズキを見つけると、僅か5 mm程度の種子が渡ってきた距離に



海流散布植物ハマアズキとその種子

改めて圧倒されます。グアムやハワイ、タヒチなどの海浜にも分布していますので、皆様も旅行先で見つけた際は、ぜひそこに至るまでの旅路を想像していただければと思います。

今後は複数の海流散布植物を用いた比較系統地理研究を行うとともに、海流や環境の差が与える影響についても検証していく予定です。今回の賞を励みに、日本最南西端の研究施設から面白い成果をご報告できるよう一層精進していきますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

山本 将也さん

はじめまして、京都大学の山本将也です。私は北半球で多様化したサクラソウ属 (*Primula*) の中でも、唯一の日本固有節であるコイワザクラ節 (sect. *Reinii*) を対象として研究を進めています。本大会では(1) 第四紀の造山活動とその後の気候変動が本節の多様化に影響を与えたこと、(2) 分布域を南方に拡大した系統のみで急速なニッチのシフトが起きたことを明らかにし、その成果を報告いたしました。この度の受賞を励みにして、今後も研究活動に日々精進して参りたいと思います。



日本産サクラソウ属の多様性

・・・情報提供のお願い・・・

この場をお借りして大変恐縮ではございますが、日本産サクラソウ属（特にコイワザクラ、イワザクラ）の自生地の情報をご提供いただければ幸いです。連絡先は yamamoto.masaya.73m@st.kyoto-u.ac.jp です。宜しくお願いいたします。

庶務報告 (2016年2月～5月)

庶務幹事 志賀 隆

公益財団法人日本学術協力財団が行った「日本学術会議協力学術研究団体の実態調査」に対して回答した(3月15日)。

2016年第1回評議員会議事抄録

庶務幹事 志賀 隆

会場：富山大学 理学部2号館1階 B136室

日時：2016年3月5日(土) 16時～19時

参加者

評議員：()内は被委任者

出席 [10名]:池田博, 海老原淳, 岡崎純子, 梶田忠, 黒沢高秀, 田村実, 坪田博美, 永益英敏, 布施静香, 米倉浩司

委任状出席 [2名]:角川洋子(角野会長), 西田治文(角野会長)

幹事会・委員会委員長：()内は役職

出席 [17名]:角野康郎(会長), 志賀隆(庶務), 池田啓(会計), 高野温子(図書), 堤千絵(ニュースレター), 矢野興一(ホームページ), 田村実(編集委員長・英文誌編集), 東浩司(和文誌

編集), 黒沢 高秀 (植物分類学関連学会連絡会・日本分類学会連合), 朝川 毅守 (自然史学会連合), 岡崎 純子 (講演会), 西野 貴子 (野外研修会), 藤井 伸二 (絶滅危惧植物専門第一委員会委員長), 樋口 正信 (絶滅危惧植物専門第二委員会委員長), 伊藤 元己 (植物データベース専門委員会委員長), 秋山 弘之 (学会賞選考委員長), 池田 博 (国際シンポジウム準備委員会)
 欠席 [2名]: 奥山 雄大 (学術会議若手アカデミー担当委員), 村上 哲明 (ABS 問題対応委員会委員長)

1. 評議員会開催にあたり, 角野会長から挨拶があった。
2. 庶務幹事により定足数が確認された。会長, 評議員 10 名の出席, 2 名の委任状出席があり, 評議員会は成立した。
3. 評議員会議長として池田博氏が, 議事録署名人として岡崎純子氏, 永益英敏氏の 2 名が選出された。
4. 報告事項
 - 4.1. 自然史学会連合関連報告 2015 年度活動報告および 2016 年度活動計画。
 - 4.2. 日本分類学会連合報告 2015 年度活動報告および 2016 年度活動計画。
 - 4.3. 植物分類学関連学会連絡会報告 2015 年度活動報告および 2016 年度活動計画。
 - 4.4. 学術会議若手アカデミー報告 2015 年度活動報告および 2016 年度活動計画。
 - 4.5. 各種委員会に関する報告
 - (1) 編集委員会 英文誌『APG』および和文誌『分類』の編集状況。
 - (2) 学会賞選考委員会 日本植物分類学会賞の選考経過。
 - (3) 論文賞選考委員会 日本植物分類学会論文賞の選考経過。
 - (4) 植物データベース専門委員会 現状説明と活動報告。
 - (5) 絶滅危惧植物専門第一委員会 現状説明と活動報告。
 - (6) 絶滅危惧植物専門第二委員会 現状説明と活動報告。
 - (7) ABS 問題対応委員会 現状説明と活動報告。
 - (8) 国際シンポジウム準備委員会 現状説明と活動報告。
 - (9) 植物分類学の将来の発展と普及に関する委員会 現状説明と活動報告。
- 4.6. 図書関連報告 寄贈雑誌・交換状況の説明。
- 4.7. 日本植物分類学会講演会報告 2015 年度実施報告および, 2016 年度準備状況。
- 4.8. ニュースレターに関する報告 2015 年度実施報告および, 2016 年度準備状況。
- 4.9. ホームページ・メーリングリスト関連報告 学会公式 HP および ML の運用状況。
- 4.10. 会務報告 2015 年度の事業報告。
- 4.11. 会計報告 2015 年度の会員状況, 会費納入状況。
- 4.12. その他
 - (1) 野外研修会について 2015 年実施報告および, 2016 年度準備状況。
 - (2) 次期会長・評議員の選出について
 - (3) 会員からの寄付受入について
5. 審議事項
 - 5.1. 2015 年度事業報告 (案) について
 志賀庶務幹事より 2015 年度事業報告 (案) が提案され, 質疑の後, 承認された。
 - 5.2. 2015 年度決算報告 (案) について
 池田会計幹事より 2015 年度決算報告 (案) が提案され, 質疑の後, 承認された。
 - 5.3. 2016 年度事業計画 (案) について
 志賀庶務幹事より 2016 年度事業計画 (案) が提案され, 質疑の後, 承認された。
 - 5.4. 2016 年度予算 (案) について
 池田会計幹事から 2016 年度予算 (案) が提案され, 質疑後, 1 項目の修正が行われた後に承認された。
 - 5.5. 年会費の値上げについて
 角野会長より会計収支の現状について説明があり, 年会費値上げの検討方法とそのスケジュールについて提案がなされ, 質疑の結果, 承認された。詳細は NL 本号 14 ページ参照。

5.6. 名誉会員の推薦について

角野会長より名誉会員の条件（会則第5条）を満たしている会員1名の名誉会員への推薦がなされ、審議の結果、承認された。

5.7. 除名について

角野会長より4年以上の会費を滞納している会員6名の除名について提案があり、審議の結果、承認された。

5.8. 特別会計に関わる事業について

志賀庶務幹事より特別会計に関わる事業を行う際の申告せ事項の提案がなされた。質疑の後、改めて特別会計の使用に関する細則を作成し、審議することが決定した。

5.9. 次期会長、評議員の選挙について

角野会長より会長候補の評議員会推薦について提案がなされ、3名の会長候補を評議員会から推薦することが決定した。詳細はNL本号3ページ参照。

6. その他

6.1. 第16回大会開催地について

角野会長より説明があり、田村実氏（京都大学）のお世話により、京都大学（京都市）において2017年3月に開催されることが承認された。

6.2. 総会議事について

志賀庶務幹事より説明があり、質疑の後、承認された。

2016年度総会議事抄録

庶務幹事 志賀 隆

会場：富山大学 黒田講堂

日時：2016年3月7日（月）17時10分～18時

1. 総会に先立ち角野会長から挨拶があった。
2. 逝去された学会員への黙祷が捧げられた。
3. 志賀庶務幹事より総会出席者が87名（後に90名）であることが報告された。
4. 岩坪美兼氏が総会議長に選出された。

5. 報告事項

5.1. 会務報告

志賀庶務幹事より、報告内容は第一号議案と同じであるので議案審議の際に報告するとの説明があった。

5.2. 会員数について

池田会計幹事より、通常会員数の説明がなされた。

5.3. 各委員会からの報告

・編集委員会

田村編集委員長から編集状況の説明があった。会員の積極的な投稿に支えられ、『APG』、『分類』ともに予定通り定期的に刊行できている。『APG』への投稿数は2012年度が34本、2013年度27本、2014年度22本と少しずつ減少傾向にあったが、2015年度は25本にやや回復している。また、『APG』にインパクトファクターを付与すべく、Web of Scienceへの登録準備を進めていることが説明された。これに加え、『APG』、『分類』ともにCiNiiから電子ファイル（PDF）を公開していたが、電子図書館（NII-ELS）の事業が終了し、2016年3月末で最新号の受付が終了することに伴い、科学技術振興機構のJ-STAGEへの移行作業を進めていることが報告された。また、J-STAGEからの新規公開論文については、DOIが各論文に付与される予定である。

・ABS問題対応委員会

村上委員長から、委員会の活動状況とABS問題について説明があった。省庁間の交渉がまとまりつつあること、国内の監視は要望していたように「とても緩やかなものにする（違反者への罰則などは設けない）」方向で最終調整段階に入っていることが説明された。一方で、もし国内措置（特に監視が）が本当に緩やかなものになる場合、自主的にABSを遵守して行く意思があることを国内外に示すべく、独自の「ABS遵守ガイドライン」などを策定・公開していく必要がある、検討を進めることが報告された。

・国際シンポジウム準備委員会

池田委員長から、2016年8月23日から25日にかけて開催予定であり、23日と24日は口頭発表とポスター発表（東京大学）、25日はエクスカージョンを予定していることが説明された。詳細はNL本号15ページ参照。

・学会賞選考委員会、論文賞選考委員会

総会前の記念講演会および表彰式において、審査結果の報告が行われた。

・大会発表賞選考委員会

総会後の懇親会において、審査結果の報告が行われた。詳細はNL本号6ページ参照。

6. 審議事項

6.1. 第一号議案 2015年度事業報告、ならびに2015年度決算報告書の承認の件

前年度の事業報告と決算報告が志賀庶務幹事と池田会計幹事よりそれぞれ行われた。五百川監事より、会務および会計が適切に行われているとの監査報告があった。審議の結果、賛成90票、反対0票で出席者（90人）の3分の2以上をもって承認された。

6.2. 第二号議案 2016年度事業計画、ならびに2016年予算案承認の件

志賀庶務幹事と池田会計幹事より上記二件について説明があった。審議の結果、賛成90票、反対0票で出席者（90人）の3分の2以上をもって承認された。

6.3. 第三号議案 名誉会員の推薦について

名誉会員の条件（会則第5条）を満たしている会員1名（榊田信彌氏）の名誉会員への推薦がなされ、賛成多数をもって承認された。

7. その他

7.1. 会費値上げについて（NL本号14ページ参照）

角野会長より、学会会計の現状と繰越金の今後の推移予測の説明がなされた。現状のサービスを維持した場合、2019年度中に赤字になるため、会費値上げについて検討を行いたい。値上げを行う場合、現状のシミュレーションに従うならば、一般会員の年会費の2000円値上げを2017度の総会にて審議事項として提案し、会則変更を行うことになる（学生会員は据え置き）。その場合、会費値上げは2018年度からの実施となる。この件については、会員から広く意見を募りながら慎重に進めていきたい。会長からの説明に対して、複数人の会員から質問・要望があった。その内容とそれに対する会長および執行部の回答は以下の通り。

1) 単純な一律の会費値上げではなく、会誌講読の有無などの会員サービスの選択を行うことは考えていないのか。

回答：冊子体の印刷数を減らしても、会誌を完全に電子出版にしない場合、それほど支出削減にはならない。現状では『APG』を完全な電子出版に移行することは時期尚早であると考えているため、一律の会費値上げを検討している。

2) 会費値上げ対象となる会員種別について。

回答：学生会員の数を考えると値上げによる会費収入増加の効果は限定的である。そのため一般会員のみを値上げを考えている。

3) 値上げ額について消費税の増税等を考慮しているのか。

回答：消費税増税についても考慮している。総会で示したシミュレーションは会費値上げ後に退会者が出ないとの前提で立てられているため、会費値上げにより退会者が出ないようにサービスの向上も同時に考えていきたい。

4) 1年分の予算額に相当する分を余剰金（繰越金）として維持すべきではないか。

回答：1年分の予算額に相当する500-600万円を余剰金として維持することが妥当であると考えて

- いる。特別会計には 200 万円程度の繰越金があり、一般会計と合わせて値上げが行われる 2018 年度当初の時点でも 500 万円程度の余剰金を維持できると考えている。
- 5) 2018 年度からの値上げでは、余剰金が 1 年分の予算額 (500–600 万円) を割り込む可能性があるのであれば、3000 円の値上げを検討する必要があるのではないか。
- 回答：3000 円値上げについては、退会者が増加する可能性もあるため、現状では考えていない。会費値上げだけでなく、支出削減も同時に進めていきたい。
- 6) 博士取得後の任期付き研究職等の不安定な職に就いている会員の会員種別について、見直しを含めた検討を進めて欲しい。
- 回答：検討したい。
- 7) 最終的な提案がなされる前にアンケート等で会員の意見を募集して欲しい。
- 回答：ニュースレター等で現状の説明を行い、会員から意見を求めることを検討している (NL 本号 14 ページ参照)。
- 7.2. 第 16 回大会開催地について
角野会長より次回第 16 回大会について京都で開催することが告知され、田村実大会会長 (京都大学) より挨拶があった。
- 7.3. 野外研修会について
西野担当委員より、新潟県佐渡市にて開催予定であることが説明された。NL60 号で既に告知済み。
8. 中田大会会長より閉会の挨拶があった。

2016 年度事業計画および予算

庶務幹事 志賀 隆

(1) 集会等の開催

- ・学術集会、講演会、研修会
年次学術集会 (日本植物分類学会第 15 回大会：3 月 5～8 日、富山大学) を開催する。
2016 年度講演会を開催する (12 月中旬、大阪学院大学)。
2016 年度野外研修会を開催する (5 月 20 日～22 日、新潟県佐渡市)。
「東アジア国際植物分類学シンポジウム 2016」を開催する (8 月 23～25 日、東京大学)。
- ・総会、評議員会
年次総会を年次学術集会に合わせて開催する (3 月 7 日)。
評議員会を開催する (3 月 5 日)。

(2) 出版物の刊行

- ・学会誌の発行
英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第 67 巻 1～3 号 (計 3 冊) を発行する。
和文誌『分類 [日本植物分類学会誌]』第 16 巻 1～2 号 (計 2 冊) を発行する。
- ・ニュースレター『日本植物分類学会ニュースレター』60～63 号 (計 4 冊) を発行する。

(3) 委員会活動

- 以下の委員会を組織し、目的に沿って活動する。
- ・絶滅危惧植物専門第一委員会
 - ・絶滅危惧植物専門第二委員会
 - ・植物データベース専門委員会
 - ・学会賞選考委員会
 - ・論文賞選考委員会
 - ・大会発表賞選考委員会
 - ・ABS 問題対応委員会

2016 年度予算
一般会計

収入の部	単価	数	予算	前年度予算との差異	
会費					
通常（一般）	5,000	733	3,665,000	△ 35,000	注1
通常（学生/海外）	3,000	94	282,000	△ 12,000	注1
団体会員	8,000	19	152,000	△ 32,000	注1
バックナンバー販売			100,000	0	
命名規約（ウィーン規約）販売			0	0	
利息			1,000	0	注2
雑収入			50,000	0	
合計			4,250,000	△ 79,000	

支出の部					
大会補助費			100,000	0	
講演会補助費			70,000	0	
出版物印刷費					
APG vol.67(1,2,3)	750,000	3	2,250,000	90,000	注3
分類vol.16(1,2)	650,000	2	1,300,000	△ 200,000	注4
ニュースレターNo.60-63	50,000	4	200,000	△ 20,000	注3
英文校閲費			50,000	0	
出版物送料					
APG送料	100	3,000	300,000	60,000	注5
和文誌送料	100	2,000	200,000	40,000	注5
NL送料	80	4,000	320,000	80,000	注5
会議費			80,000	30,000	注6
学会賞表彰経費			60,000	0	
自然史学会連合負担金			20,000	0	
分類学会連合分担金			10,000	0	
事務局管理費					
消耗品費			50,000	0	
交通費			150,000	50,000	注6
アルバイト賃金			200,000	△ 270,000	注7
封筒等印刷費			50,000	△ 200,000	注8
通信費（小包手数料を含む）			70,000	0	
手数料・その他			30,000	0	
自動振替集金代行基本料			3,240	0	
自動振替口座確認手数料	130	170	22,100	680	注9
レンタルサーバー使用料			26,000	0	
国際シンポジウム積立金			0	△ 300,000	注10
予備費			100,000	0	
合計			5,661,340	△ 639,320	

単年度収支	△ 1,411,340	
前年度からの繰越金	6,515,114	
次年度への繰越金	5,103,774	

- 注1: 会員数見直しによる（新入会、名誉会員増、退会・除名・逝去など）
- 注2: 特別会計分の利息を含む
- 注3: 過去5年の印刷費に基づき単価の見直し（12500円/頁×60頁/号）
- 注4: 出版費用の見直し
- 注5: 発送単価の見直し
- 注6: 幹事引継会議のため増額
- 注7: 通常の謝金は15万円に減額。CiNiiからJ-STAGEの移行確認のための謝金を5万円計上。
- 注8: 追加印刷分
- 注9: 手数料にかかる消費税の見直し
- 注10: 2017年度以降の開催予定が未定のため、積立を行わない

特別会計

収入	予算	前年度予算との差異	
前年度繰越金	3,087,677	532,036	
国際シンポジウム積立金	0	△ 300,000	注1
命名規約和訳販売	35,520	0	注2
寄付	0	0	
利息	0	0	注3
合計	3,123,197	△ 1,862,114	
支出			
命名規約和訳出版	0	0	
国際シンポジウム準備金	1,200,000	0	注4
国際シンポジウム若手派遣	0	0	注5
次年度への繰越金	1,923,197	232,036	
合計	3,123,197	△ 1,826,594	

- 注1: 2017年度以降の開催予定が未定のため、積立を行わない
- 注2: 出版社との契約（販売価格2368円/部×10%×150部=35520円に基づく）
- 注3: 一般会計の利息を含む
- 注4: 開催に係る準備金
- 注5: 今年度は海外での開催が無いため

- ・国際シンポジウム準備委員会
- ・植物分類学の将来の発展と普及に関する委員会
- (4) 表彰
 - ・日本植物分類学会賞（学会賞・奨励賞）の授与を行う。
 - ・日本植物分類学会大会発表賞の授与を行う。
 - ・日本植物分類学会論文賞の授与を行う。
- (5) 国内外の関係学術団体との連携・協力
 - ・国内学会連合等への参加・連携を行う：日本学術会議、自然史学会連合、日本分類学会連合など。
 - ・The Korean Society of Plant Taxonomists (KSPT), および Taxonomy and Evolution Division, the Botanical Society of China (BSC) 等と連携する。
- (6) その他
 - ・学会刊行物のバックナンバー等の販売と整理を行う。
 - ・植物分類学関連情報（学術集会、研究動向、出版物、公募）を収集し、ニュースレター、ホームページ等で提供する。
 - ・学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換を行う。
 - ・植物分類学研究マニュアルの作成と和文誌『分類』への原稿掲載ならびに『植物分類学研究マニュアル』（仮題）の出版計画を進める。
 - ・会長・評議員の選挙を行う。

日本植物分類学会の財政基盤の健全化に向けて（1）

会長 角野 康郎

今年3月に富山大学で開催された植物分類学会大会は、若手会員の参加も多く、盛会裡に終わりました。研究発表も多彩な内容にひろがり、レベルも確実に上がっています。本学会が活発に活動していることを実感できる大会でした。しかし、将来の学会の発展に向けていくつかの課題もあります。

その一つが財政基盤の健全化です。ここ数年の会計報告をみますと、単年度収支は、毎年、約150万円の支出超過であり、繰越金を食いつぶして学会活動が維持されている状態です。この件は以前から問題として認識されていましたが、具体的なシミュレーションを行うと、このままでは2019年度には破綻することが明らかになってきました。お尻に火が付いた状態です。

現在、植物分類学会の年会費は一般会員5000円、学生会員3000円です。それに対し英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica (APG)』を年3冊、和文誌『分類』を年2冊、そしてニュースレターを年4回お送りしています。編集担当者と会員の皆さまの尽力で、一時期発行が遅れていた『APG』も定期発行できるようになりました。また『分類』も内容が充実し、会員の皆さまに好評です。またニュースレターを通じて、さまざまな情報を提供しています。このような現状のサービスを提供し続けることが、現在の会費では困難になってきているという現実を直視しなければなりません。

今までも会員数増加や経費節減の努力をして参りました。しかし、それにも限界があり、学会の今後の健全な運営のためには、学会活動を収入内に収まるように見直すか、収入を上げる方法を検討するかという二つの選択肢しかありません。今年の評議員会では、さまざまな選択肢を議論し、総会でもこの問題を提起して意見を伺いました。総会での議論の内容はNL本号11ページに掲載されている議事抄録(7.1)をご参照ください。支出削減の方策のひとつとして、学会誌の冊子体での発行を止め、電子版のみにするという案もありました。しかし、冊子体の出版は維持すべきであるというのが現時点での多数意見です。そのような議論を踏まえ、総会では現状のサービスを維持するために会費の値上げを真剣に検討するという方向を認めていただきました。もちろん支出削減のための可能な方策についても検討を続けています。値上げ幅等については、今年いっぱいかけて検討し、来年度の総会に提案する予定です。

会費値上げが会員数の減少をもたらしては元も子もありません。会員の皆さまが、本学会に何を求め

ておられるのか、そのためにどの程度の負担なら受け入れられるのか、慎重に見極めたいと考えています。

会員の皆さまのご意見を聞きながら具体的な方針を検討します。その経過は、今後ニュースレターでお知らせしていきます。ご意見、ご提案のある方は、遠慮なく庶務幹事の志賀隆 (shiga@ed.niigata-u.ac.jp) 電話・FAX: 025-262-7154) までお寄せ下さい。

お知らせ

東アジア国際植物分類学シンポジウム 2016

“East Asian Plant Diversity and Conservation 2016” のご案内

国際シンポジウム準備委員会 池田 博

しばらく中断していました日中韓を中心とする国際植物分類学シンポジウムを、この8月に東京で開催することになりました。会場を東京大学弥生キャンパス（文京区弥生）とし、エクスカーションとして日光方面を考えました。このシンポジウムを通して、近年研究の発展が著しい中国・台湾・韓国の研究者らと親しく交わり、現在の研究および将来の研究について胸襟を開いてディスカッションできる場を提供することができればと考えています。

「発表・参加申込書」には、現在のご自身の研究に関するアンケートがついています。同様のものを海外からの参加申込書にもつけています。これは今後の研究を展開する上で国際協力体制ができないかと考えてのことです。アンケートにご協力のほどよろしく願います。

このシンポジウムは、国際会議にも位置づけられるものです。特に若手の会員の方にとっては研究業績を加える良い機会にもなると思います。また、ポスター発表に関する発表賞も設けたいと思います。

シンポジウムのテーマについては、現在発表者の方と打合せをしているところです。エクスカーションを含め、魅力あるシンポジウムとしたいと思っておりますので、皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

<会場>

- ・東京大学弥生講堂 一条ホール（シンポジウム、ポスター発表）
〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学部（弥生キャンパス）内
- ・東京大学山上会館（懇親会）
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学（本郷キャンパス）内

<日程>

2016年8月23日（火）～8月25日（木）

8月23日（火）・24日（水）午前 シンポジウム・ポスター発表

8月24日（水）午後・25日（木）エクスカーション（日光白根山・戦場ヶ原）

※エクスカーションについて

24日（水）の午後にバスで東京を発ち、その日は日光に宿泊し、翌25日（木）に日光白根山・戦場ヶ原周辺を散策し、夕方東京に戻る予定。時間があれば日光東照宮や日光植物園（小石川植物園日光分園）も見学の予定。

宿泊：日光ぐりーんほてる 懐かし家 風和里（なつかしやふわり）

〒321-1434 栃木県日光市本町9番地

Tel: 0288-54-2002 Fax: 0288-54-1144

<参加申込>

原則として電子メールでお申し込みください。大会 HP (<http://e-jsps.com/2016sym/>) から、「発表・参加申込書」をダウンロードしていただき、必要事項を記入し、大会専用アドレス (eap2016@um.u-

tokyo.ac.jp)宛てに添付ファイルとしてお送り下さい。

発表される方は、要旨とともに6月30日(木)が締め切りですので、遅れないようお願いいたします。

- ※1 メールの件名 メールの件名(タイトル)は、「シンポ申込_ [申込者氏名]」として下さい。
- ※2 添付ファイル名 添付ファイル名も、「シンポ申込_ [申込者氏名].doc」として下さい。
- ※3 受付の確認 送信してから7日(土日・祝日を除く)経っても大会準備委員会から受信の返事がない場合は、メールの件名を「シンポ申込再送信+ [申込者氏名]」に変更した上で、同じメールを送信して下さい。

<申込締切>

発表者：大会参加・懇親会・エクスカーション申込・発表要旨ファイル提出 6月30日(木)

発表者以外：大会参加・懇親会・エクスカーション申込 7月31日(日)

※6月30日までの振込は、大会参加費・懇親会費が割引になります。

<大会参加費・懇親会費・エクスカーション費>

・大会参加費(発表要旨集(1部)の代金含む)

6月30日まで 一般 4,000円 学生 2,000円

7月1日以降 一般 5,000円 学生 3,000円

追加発表要旨集1部 1,000円

・懇親会費

6月30日まで 一般 6,000円 学生 4,000円

7月1日以降・当日 一般 7,000円 学生 5,000円

・エクスカーション費(宿泊費・バス代含む)

一般 約20,000円 学生 約15,000円(参加人数によって多少の増減あり)

<参加費等の振込>

参加申込をされる際には、必ず下記口座にお振り込みの上、お申し込み下さい。

郵便振替口座名称：国際植物分類学シンポジウム2016準備委員会

郵便振替口座番号：00100-4-387623

<発表の要領>

本大会の公用語は英語とします。発表には英語を用いていただきますようお願いします。

●ポスター発表

ポスターの大きさは、縦120cm、横90cm以内です。貼り付け用テープ等は大会準備委員会で用意します。ポスターの貼り付けは8月23日の朝、撤収は8月24日の12:00までをお願いします。

<発表要旨作成要領>

発表要旨の原稿はMS(マイクロソフト)ワード(Windows版、Mac版)を用いて作成してください。

1) A4版用紙1枚に、左右2cm、上下3cmの余白をとってください。

2) 発表題目、1行空白、発表者氏名(カッコ内に所属)、1行空白、用紙本文の順に記入してください。

3) 発表題目は14ポイント、その他は12ポイントのTimes New Romanフォントを用い、余白を除いた範囲内に収まるようにしてください。

4) 図・表を入れることも可能ですが、図・表を含めて収まるようにして下さい。白黒印刷しますので、グレースケール原稿は印刷の際につぶれるおそれがあります。できる限りグレースケールは使わないようにして下さい。

※記入例(Abstract-example2016.docx)を大会HPにアップしていますので、ご参考ください。

<会場へのアクセス・キャンパスマップ>

構内には駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。
 東京大学弥生キャンパス・弥生講堂 一条ホールへのアクセスマップ
<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/map.html>

<宿泊・観光案内>

会場に近い上野、御茶ノ水、池袋、後楽園などの各鉄道沿線には多くの宿泊施設がありますので、各自でご予約ください。

日本植物分類学会第 16 回大会（京都）のお知らせ

第 16 回大会実行委員会 東 浩司・井鷲 裕司・坂口 翔太・瀬戸口 浩彰・田村 実（委員長）・永益 英敏・布施 静香（事務局長）

日本植物分類学会第 16 回大会を以下の通り開催致します。大会および参加申込の詳細につきましては、大会ホームページおよびニュースレター 62 号・63 号でお知らせ致します。

宿泊に関しましては各自でご予約下さい。春の京都は宿が取りにくい可能性がありますので、ご予約はお早めをお願いします。多数のご参加をお待ち致しております。

【日程】2017 年 3 月

- 9 日（木）：各種委員会・評議員会
- 10 日（金）：研究発表
- 11 日（土）：研究発表・総会・懇親会など
- 12 日（日）：受賞講演・公開講演会

【会場】京都大学大学院理学研究科（12 日は京都府立植物園）

【問合せ先】〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院理学研究科植物学教室内

日本植物分類学会第 16 回大会（京都）実行委員会

事務局長 布施 静香

Tel & Fax: 075-753-4145 E-mail: jsps16@sys.bot.kyoto-u.ac.jp

植物研究会・同好会紹介**「しだとこけ談話会」**

道盛 正樹（世話人）

談話会の紹介の依頼を受け、編集者から再度の確認メールをいただき、いよいよ原稿を書き始めようと思っていた矢先の 1 月 5 日に談話会の重鎮であった北川尚史先生の訃報が届いた。1 月 3 日に他界されたとのこと、御遺志により近親者のみでお別れされた。ご冥福をお祈りしたい。談話会の紹介は、1997 年に北川先生が奈良教育大学から刊行された「しだとこけ談話会—生涯教育の先駆的な一例として—」にまとめられおり（注：談話会機関紙『しだとこけ』16 巻 4 号にも再録された）、北川先生の奥様に許可をいただき一部を再録し、発足当時を紹介します。



開かれた大学・生涯教育として

「しだとこけ談話会」には制約がほとんどない。誰でも、いつでも入会できるし、退会できる。組織もごく緩やかであり、会則（注：現在は簡単な要領がある）もなく、会長もおらず、いかなる委員会もない。庶務・会計の世話人と機関誌『しだとこけ』の編集者がいるだけである。隔月（注：近年はやや不定期）に行われる例会の通知も、あらかじめ通信用の葉書を庶務の世話人に出している者だけに送られる仕組み（注：現在はメール配信が主）になっている。宣伝活動はいっさいしないので、新しいメンバーは人づてにこの会の存在を知って、例会に参加することになる。会としての縛りが緩やかであるため、運営がスムーズになりがちであり、会の記録がきちんとした形で残っていない、機関誌の発行が不定期であるなどの欠陥もある。

発足当初には、例会は毎月、田川基二先生によるシダ植物に関する講義が行われていた。その後は隔月に行われており、毎回、数名の人がコケとシダに関するさまざまなテーマで話すことになっている。たいていは日曜日に行われ、会場は大阪、京都、奈良などの学校や博物館であったが、最近は大阪市立自然史博物館（大阪市東住吉区長居公園内）と奈良教育大学（奈良市高畑町）にほぼ定着している。会の後には、希望者だけが居残り、酒を飲みながらシダやコケや植物一般について話し合い、楽しい団欒のときをもつことが多い。メンバーには愛飲家が多く、帰りにみんなで連れだつて会場の近くの飲み屋へ入ることもある。

この会はシダやコケの好きな人たちが楽しみながら勉強をする集まりである。レベルはかなり高いが、大学の教育とは異なり、理念とか目的とかをうるさく言わず、もちろん、単位や資格の取得とはまったく無関係である（中略）。「しだとこけ談話会」は、勉強の好きな人たちが自らの知識欲を満たし、同好の人たちとの親睦を深めることに大きな意義がある。この会が良く続いている理由は、田川基二先生という優れた指導者がいたことと、その教えを受け止める在野の優秀な人材がいたことにある。田川先生が亡くなられてから、会はやや求心力を失ったが、先生が活躍していた時代に培われた会の気風は今日もまだ生き続けているようである。（中略）

指導者の田川先生は学問一筋の清廉な人格の持ち主であり、物質的にはまったく無償の行為に、長い間、喜んで参画された。シダもコケもほとんど人間の役には立たないマイナーな植物群であり、それを勉強したところで栄達には繋がらない。したがって、この会に参加する人たちは、純粋に学問への興味のためだけに隔月に一度の日曜日を過ごしている。実際、この会は、俗っぽい世間とは無縁の存在であり、その集まりはいかにも爽やかで、例会に参加したときの気分はいつもすがすがしい。また、大阪人はスマートではないが、実力を重んじるところがある。体裁よりも実質を尊ぶこの気風は、大阪生まれの「しだとこけ談話会」にも窺えるようである。（中略）

「しだとこけ談話会」の歴史

「しだとこけ談話会」は「シダ類談話会」という名で昭和25年（1950年）9月に発足した。シダの分類の研究に興味を抱いていた稲田又男、児玉務、瀬戸剛の諸氏が、その数年前から田川基二先生の知遇を得て、京大へシダの標本を持参して先生に同定をしてもらっていた。昭和25年の夏に、「シダを本格的に勉強するためには基礎から学ばなければ駄目だ。自分が講義をしてやろう。みんなが京都へ出てくるのはたいへんだから自分が大阪へ行こう。大阪で会場を探してくれ」と、先生自身が申し出てこの会ができ、当初は大阪市内で例会が行われていた。

第1回の例会は、昭和25年9月8日（金曜日）、大阪学芸大学天王寺分校の生物学教室（3階の階段教室）で行われた。当時、瀬戸剛氏がアルバイトで大阪学芸大学の馬場菊太郎教授・（動物学）の実験助手をしており、そのコネで会場が得られたのである（田川先生は、後日、会場提供の礼を言うために、馬場教授の研究室へわざわざ挨拶に行かれたという）。この第1回の例会では田川先生によるマツバラ科についての講義が行われ、参加者は12名であった。第2回例会は翌10月8日（日曜日）に大阪学芸大学天王寺分校で行われ、田川先生がヒカゲノカズラ科について講義され、参加者は15名であった。第3回は、翌11月11日（土曜日）、同様に大阪学芸大学天王寺分校で行われ、田川先生からイワヒバ科とミズニラ科の講義があり、参加者は7名であった。以下、毎月、同様に大阪のいろいろな学校を会場にして例会が開かれた。

この会の初期の例会に集まった人たちは、児玉務、瀬戸剛、山中雅也、稲田又男、堀勝、中島徳一郎、

米沢新治, 桑島正二, 岡田清, 川崎正悦, 建部恵潤, 室井綽, 岡本はたなど, 主として大阪府および兵庫県に在住の諸氏であった。いずれも京大の学外の人たちであり, 先生にとっては優秀な外弟子たちであった。水谷正美氏も昭和 31 年に服部植物研究所 (宮崎県日南市) へ就職する前にしばらくこの会のメンバーであった (水谷氏は田川先生の推薦により, 同研究所へ就職した)。

私がこの会に参加し始めたのは, 昭和 33 年 4 月に大学院へ進学してコケの研究を専攻することになったときである。そのとき以来, 田川基二, 岩槻邦男, 中島徳一郎, 北川尚史, 加藤雅啓, 瀬戸剛, 斎木保久, 布藤昌一, 光田重幸, 長谷川二郎, 白岩卓巳, 土永浩史, 秋山弘之, 山住一郎など, シダやコケに詳しいたくさんの人たちがさまざまなテーマで講義を行ってきた。最近では, 若い人たちによって, 分岐分類学や DNA 解析による分子系統学の最新の知識が披瀝されることもある。

この会は教室での講義ばかりでなく, 野外へ出てシダやコケを実地に観察することも行っている。(中略)

創設以来, 今日までの約 50 年間に, 会の中核にいた幾人もの人たちが物故したり, 転勤で関西を離れたりした。田川基二先生は昭和 52 年 7 月 19 日に心不全で逝去された。享年 69 であった。指導者を失ったことは「しだとこけ談話会」にとって大きな不幸であったが, 先生の遺志を継いで, 会を継続することになった。(後略)



例会は, 第 67 回 1964 年 10 月兵庫県播磨・砥の峰採集会でいったん途切れましたが, 1968 年 6 月 23 日奈良教育大学で復活第 1 回の談話会が始まりました。2015 年 12 月 23 日には復活第 182 回の例会を大阪市立自然史博物館で開催しました。ずっと代表世話役を務められた瀬戸さんが代表を勇退され, 道盛に引き継がれました。老若男女, プロもアマも分け隔てなく, シダやコケが好きなら誰でも参加できるフランクな集まりです。会則も会費もありません。

機関誌『しだとこけ』は不定期に刊行されており, 和文ながら論文に近いもので, 16 巻 4 号 (2009 年 12 月 23 日) まで刊行されています。

「しだとこけ談話会」<http://pteris.la.coccan.jp/danwakai/index.html>

引用文献

北川尚史 .1997. しだとこけ談話会—生涯教育の先駆的な一例として—. 平成 8 年度教育研究学内特別経費報告「オープンキャンパス—教育系大学・理科の試み—」. pp. 17-28. 奈良教育大学.



第 3 回例会 1950 年 11 月 11 日



第 184 回例会 於大阪市立自然史博物館
撮影: 総谷文清

「北方山草会」

佐藤 広行 (北方山草会運営委員・北海道大学総合博物館資料部研究員)

北方山草会は 1980 年に阿保精一を会長とし, また坂本直行・豊国秀夫・野坂志朗を顧問として, 山野草を愛好する植物好きな市民が集まれる会として設立されました。会員数は約 100 名で, 主な行事と

しては観察会を年に数回行い、年一回の総会（講演及び総会議事）、会誌の発行を行っています。会員は道都である札幌市近郊に限らず、北海道全域に亘り、また本州にも会員がいます。会員の中には大学教員、高校教員や、博物館学芸員、アセス調査会社、大学院生などの学生や市民の方がおり、「プロとアマチュアのかげはし」となる会となっています。現在は北海道大学総合博物館の高橋英樹教授を会長、鮫島惇一郎を顧問として活動を続けています。

会員の興味の範囲は広く、北海道に限らず「北日本・極東ロシア・北米」にも広がっています。その他、園芸植物、外来植物、ボタニカルアートに関心のある方や、イネ科、カヤツリグサ科、シダ植物などの難解な植物に興味がある会員もおり、また地域フロラなどについて調査研究している方もいます。それらの成果として、最近では五十嵐博（『北海道帰化植物便覧』2000, 『北海道外来植物便覧 2015 年版』2016）、梅沢俊（『新北海道の花』2007, 『北海道のシダ入門図鑑』2015）、辻井達一（『湿原力 神秘の大地とその未来』2013）、山崎真実（『北海道 水辺の生物の不思議』2013）、内田暁友（『知床の高山植物』2013）、丹羽真一（『自然ガイド 藻岩山・円山』2013）、船迫吉江（『図譜 日本のすみれ』2014）、松井洋（『北海道維管束植物目録』2015）、高橋英樹（『千島列島の植物』2015）、大原雅（『植物生態学』2015）、宮本誠一郎（『サロベツ・ベニヤ 天北の花原野』2015、そして、2015年から2016年にかけて出版中の『改訂新版日本の野生植物』では本会会員（佐藤広行・高橋英樹）も分担執筆者となっており、単著・共著・編著で数々の本を出版しています。また上記の会員の他にも各種学術雑誌に研究論文を報告する会員もいます。

会員それぞれ興味を持っている植物の話題について原稿を集め、会誌『北方山草』を出版してきました。今年で33号になります。会誌は植物関連の興味深い記事が集まっており、本会の特色である「プロとアマチュアのかげはし」となるような記事を掲載しています。研究論文のような記事もあれば、観察会の報告や、植物の話題、珍しい植物や美しい花の写真の紹介などがあります。また近年、小特集を組み（最近20年間の北海道植物研究・湿原&絶滅危惧種・外来植物・シダ植物・北海道のラン・北海道の超塩基性岩植物・サクラソウ類・北海道離島の植物・スミレ・ユリの仲間・バラの仲間・水辺の植物）各専門家の先生へ寄稿を依頼して、会誌の充実を図っています。35年余りの活動を経て、今では北海道を代表するような植物を愛好する団体となっています。これまでの活動内容と会報のバックナンバーの目次および記事の一部は、本会のホームページでご覧いただけます。関心のある方は是非ご覧下さい。

入会・会誌購入案内

本会に入会希望される方、会誌の購入を希望される方は、事務局の五十嵐宛にご連絡下さい。

会報：『北方山草』は年1回発行

年会費：4,000円

会誌・バックナンバーのみ御購入の方は1冊2,500円。別途、振込料、送料などがかります。

Web サイト：<http://hopposansokai.web.fc2.com/>

事務局：〒066-0066 北海道千歳市大和2-4-13 五十嵐博

電話：090-7653-8401 E-mail: move-i@nifty.com



図1 2013年総会時の講演会の様子
(撮影：本多丘人)



図2 2013年礼文島での観察会の様子
(撮影：吉中弘介)

